

現代語における「いってみれば」の用法

斬 園 元

1 はじめに

「いってみれば」¹という表現は、論説文から文芸作品までの幅広い文体に用いられるが、いざこの表現の意味を問われると、案外はつきりと答えられない。実際、「いってみれば」は、多種多様な表現に置き換えることができる。例えば、次の(1)²では、aは「ほかの言葉でいえば」、bは「たとえていえば」、cは「あえていえば」などに置き換えても文の意味が変わらない。

- (1) a. ある時、客船を設計したりする造船関係の会合に呼ばれて、利用者の立場でどんな客船がいいかを話させられることになった。言ってみれば私の望む客船像である。(1987 柳原良平『船旅を楽しむ本』)
- b. また、計算練習はいってみればジョギングや体操のような基礎体力づくりですから、毎日すこしずつというのが一番効果が上がります。(1995 小宮山博仁『わが子を算数大好きに変える本』)
- c. 俺が恋したのは、彼女の美しさやあでやかさやプロポーションじゃなく、その、言ってみれば全存在のリスクをかけたいさぎよさ、決して妥協せぬ勇気だったのではないだろうか。(1986 栗本薫『死はやさしく奪う』)

意味用法が多岐に渡る「いってみれば」という表現は、国語辞書類において、「いわば」の同義表現とされることが多いが、その詳細な用法及び「いわば」との相違が指摘されていないため、満足できる語釈はいまだに見当たらない。

この二つの表現には微妙な相違があり、常に相互に入れ替わることが可能というわけ

¹ 「言ってみれば」「言ってみれば」といった複数の表記が存在するが、以下の記述では「いってみれば」の形に表記を統一する。ただし、引用例ではもとの表記に従う。なお、後述する「いわば」についても、「謂はば」「いはば」といった複数の表記が存在するが、本稿の記述では「いわば」に統一し、引用例ではもとの表記に従う。

² 本稿における用例は、特別な説明がない限り、全て「現代日本語書き言葉均衡コーパス」(BCCWJ)の「書籍」部分から引用したものである。

ではない。つまり、「いってみれば」は「いわば」に言い換えにくい、または言い換えたらニュアンスが変わることがある。一般言語学では、言葉は形が異なれば、その意味も異なるという言語観³が語っているように、「いってみれば」と「いわば」とは異なる形式にある以上、必ず何らかの相違があることはいうまでもないと思われるが、この2語の差異は簡単に「いわば」が文語的、「いってみれば」が口語的という文体差による説明だけでは片付けることはできない。ここが意外に研究の盲点となっている。

そこで、本稿では、現代語の用例に基づき、「いってみれば」の用法を詳細に見てみたい。以下、まず2節では先行研究と国語辞書における「いってみれば」と「いわば」に関する記述を概観する。次に、3節では先行研究の知見を踏まえながら、現代語における「いってみれば」の用法を仔細に考察する。そして、3節の調査に基づき、4節では「いってみれば」の意味の本質について、語構成の観点から「てみる」の意味的特性によって検討を試みる。

2 国語辞書と先行研究における記述

2.1 国語辞書において

現行の主要な現代国語辞書における「いってみれば」に関する記述を確認した結果、「いってみれば」は「いわば」の語釈の中に現れることが多いことがわかった。調査の詳細は次ページの表1にまとめて示す。辞書の記述において、「いってみれば」は単独の項目または「いわば」の下位項目として挙げられる場合も、次ページの表1における「いってみれば」の欄に記す。

本稿の調査から、「いってみれば」の基本的な意味用法は何か、またこの表現が語彙項目の一つとして認められているか否か、という2点が読み取れる。

まず、基本的な意味用法について、「いってみれば」の語釈には、「たとえば」「言い換えれば」という記述が多用されているため、「いってみれば」の基本的な用法として「**比喻**」と「**換言**」の二つが指摘できると思われる。一方、下記の辞書は全て「いわば」を一項目として取り上げているが、『広辞苑（第七版）』と『新明解国語辞書（第七版）』を除けば、「いわば」の語釈に全て「いってみれば」が用いられている。すなわち、「いってみれば」は多くの国語辞書で「いわば」の語釈として使用され、この二つの表現はほぼ同義表現と見なされている。

³ たとえば Bolinger（1977）など。

〔表 1 辞書における「いわば」と「いってみれば」の記述〕

規模	辞書	刊年	いわば	いってみれば
大型	日国	2000	〔副〕言ってみれば。たとえて言えば。たとえは。	「いうなれば」の同義語。
	新言	1982	p220 (接) 言ひて見ば。たとはば。	
	講談	1995	p161 (副) 言ってみれば。たとえていえば。so to speak	
	新辞	1998	p144 (副) たとえて言えば。言ってみれば。	
中型	辞林	2006	p189 (副) たとえを例示してわかりやすく言い換えたり、極端に結論として示したりする意を表す。たとえて言えば。言ってみれば。	p110<「言う」の下位項目>言ってみれば たとえて言えば。換言すれば。
	辞泉	2012	p277 (副) 言ってみれば。たとえて言えば。	p234ほかの言葉で言う。換言すれば。言い換えれば。
	広七	2018	p224 (副) 言ってみるならば。たとえて言うならば。	p131<「言う」の下位項目>言い換えれば。
	新潮	1995	p167 (副) 言ってみれば。たとえて言うならば。	
小型	学研	2008	p108《副》言ってみれば。たとえて言えば。別のことばで言えば。	p92《連語》たとえて言えば。換言すれば。
	省国	2008	p93 (副) 言ってみれば。たとえて言えば。	p54<「言う」の下位項目>言ってみれば (句) 別のことばで言えば。
	岩七	2009	p97《副》(たとえて)言ってみれば。	
	鏡二	2010	p141《副》(たとえて)言ってみれば。(しいて)言うならば。	
	省現	2011	p86 (副) たとえて言えば。言ってみれば。	p49<「言う」の下位項目>言ってみれば 別のことばで言えば。
	明七	2012	p106 (副) 何かについて、端的な譬喩や別の観点からの簡潔な表現に置きかえて説明する様子。	

日国：日本国語大辞典第二版（小学館）

新言：新編大言海（富山房）

講談：講談社カラー版日本語大辞典第二版

新辞：ハイブリッド新辞林（三省堂）

辞林：大辞林第三版（三省堂）

辞泉：大辞泉第二版（小学館）

広七：広辞苑第七版（岩波書店）

新潮：新潮国語辞典第二版

学研：学研現代新国語辞典改訂第四版

省国：三省堂国語辞典第六版

岩七：岩波国語辞典第七版

鏡二：明鏡国語辞典第二版（大修館）

省現：三省堂現代新国語辞典第四版

明七：新明解国語辞典第七版（三省堂）

次に、語彙項目の一つとして認定されるか否かについて、本稿で調べた辞書のうち、「いってみれば」を一項目として取り上げているのは、『日本国語大辞典（第二版）』、及び『大辞泉（第二版）』『学研現代新国語辞典（改訂第四版）』の三つで、大・中・小型の国語辞書にはそれぞれに一つがある。そのうち、『日国』では「いうなれば」の同義語と

して「いってみれば」が挙げられ、詳しい解釈は見当たらない。また、単独の項目ではなく、「言う」の関連形式（いわゆる慣用表現または形式的用法）として「いってみれば」を挙げている辞書が中型と小型の国語辞書にそれぞれ二つがある。本稿で調べた辞書は合わせて 14 点であり、調査の結果は限られた範囲の事実しか反映していないが、**現行の国語辞書において「いってみれば」は一語というより、「言い換えれば」「一言でいうと」といったような慣用化したフレーズと見なされる傾向**を垣間見ることができる。

2.2 研究文献において

飛田・浅田（1994）の『現代副詞用法辞典』には「いってみれば」の項目があり、次のように解説されている。

「典型的なものにたとえる様子を表す。プラスマイナスのイメージはない。述語にかかる修飾語として用いられる。ややくだけた表現で、かたい文章中にはあまり登場しない。「喩えて言えば」という意味であるが、たとえる内容はかなり個人的・主観的で、一般にたとえと認められているとは限らない内容であることが多い。一般的にたとえることが認められているものにたとえる場合には「いわば」を用いる。ただし「いわば」はややかたい文章語で、文章や公式の発言などによく用いられる。」（飛田・浅田 1994 : 62）

以上の記述では、「いってみれば」の基本的な用法が「**比喩**」であることと「**いわば**」との相違が指摘されている。特に「**いわば**」との相違について、「いってみれば」が導くたとえの内容は「**個人的・主観的**」であり、「**ややくだけた**」文脈に用いられやすいのに対し、「**いわば**」が導くたとえの一般性がより高く、「かたい」文脈に用いられる、と指摘されている。しかし、実際には、論説文や学術論文などにも「いってみれば」がよく用いられている。例えば、次の（2）は、CINII 所収の論文から引用した用例である。

- （2） a. アメリカがフィリピン植民地に認めた自治体制は、**いってみれば**アメリカ資本の利益に基づくものであり、そこには常に資本の論理が作用していたのである。
（篠原武夫 1972「フィリピンの林野制度--スペイン植民地期」『琉球大学農学部学術報告』19、pp.489-501）
- b. Enjoy 東京では、町並みや人がきれいで、金持ちが多いに負荷量が高いが、Enjoy 大阪では親しみやすいや下町的に負荷量が多い。**いってみれば**、東京がスマートで親しみにくいのにに対して大阪は溶け込みやすい庶民的なイメージになっている。
（詫摩武俊（ほか）1989「「東京イメージ」と「大阪イメージ」の構造」『総合都市

研究』37、pp.71-119)

c. 「私」のあり方を、その起源に遡って考えれば、それは「真似」「ふり」「演技」などとして成立していることがわかる。太宰文学は、それを〈服装〉が内面を規定するという形で描いている。言ってみれば、〈服装〉こそが「私」なのだ。(藤原耕作 2004「太宰治文学における〈服装〉」『大分大学教育福祉科学部研究紀要』26-1、pp.98-88)

d. さらにその土器がどのように製作され用いられ移動させられたのか、言ってみればいかなる社会的ニッチを持たされていたのか、について型式学的、さらには他の方面からの多様な検討を深めていく必要があろう。(小林謙一 2004「東信・北関東地方の縄紋中期中葉土器の生産と流通についての予察」『国立歴史民俗博物館研究報告』120、pp.147-182)

e. 本論で「主体性」は、independency と訳されているが、それは人間存在の基盤喪失を際立たせようと意図してのものである。論究は、この喪失によって開かれてくる場所、言ってみれば independency の in が、有用性の徹底化としての近代化の必然的帰結であり、私たち自身に課せられた歴史的問いでもあることを示して、結びとした。(伊藤徹 2011「日本近代の芸術の時代精神とその哲学的意味」『関西大学東西学術研究所紀要』44、pp.35-53)

このように、「言ってみれば」は話者の主張といった個人的な見解を述べる場合に用いられているが、必ずしも「くだけた」文脈に使用されるとは限らない。したがって、「いわば」と「言ってみれば」の二つの表現には、それぞれに後続する表現には一般論か個人的見解(独自性の強い見解)かという相違が存在している傾向は実際の用例で見て取れるが、それは結果であって、この2語の意味的本質ではない。ましてやこの2語の相違を文体の差に帰結することについては、なおさら慎重な検討が必要だと思われる。

ほかに、「言ってみれば」を考察対象とする研究ではないが、それとほぼ同義表現である「いわば」に関する研究、及びその類似表現に関する研究の中で「言ってみれば」が言及されているものとして、次ページの表2に挙げているものが見られる。これらの先行研究において、基本的には「言ってみれば」は「いわば」の類似表現とみなされており、比喩や換言を導く接続表現に分類されている。以下では「言ってみれば」に言及している森田(1989)と石黒(2008)の論考を簡単に紹介する。

森田(1989:166)は、「いわば」について、「たとえていうならば」「しいていうならば」の意味を表し、類義表現として「言ってみれば」を取り上げ、これらの表現は「比喩として例示する場合やわかりやすく説明するために、単純な結論として示す場合に用いる」と説明している。また、同じく結論提示の文脈で用いられる「つまり」と「いわば」の区別について、前者は「説明的表現の真の意味や、比喩の内容を結論的に示すと

きに用い」、後者は「その逆に、理解を助けるための比喩的な言い方として、“……のようなものだ”と結論的に示すときに用いる」と述べている。例として、次の(3)に示すものが挙げられている。森田(1989)には「いってみれば」の具体例は挙げられていない。

(3) 「アジアの東に位置する島国、つまり日本は……」

「日本は、いわばアジアの東に位置する島国と言えるだろう」(森田 1989 : 166)

また、石黒(2008 : 116)⁴は、「つまり」の類似表現として「いってみれば」と「いわば」を取り上げている。石黒氏はこの二つの表現は「たとえていえば」の意を表し、比喩的・象徴的な表現に言い換える表現であると述べているが、より詳細な分析は行われていない。

〔表 2 先行研究における記述〕

森田 (1989)	「つまり」と「いわば」の区別について、前者は「説明的表現の真の意味や、比喩の内容を結論的に示すときに用い」、後者は「その逆に、理解を助けるための比喩的な言い方として、“……のようなものだ”と結論的に示すときに用いる」
石黒 (2008)	先行文脈では理解しきれない内容を、後続文脈で読み手にわかりやすく示すことを予告する」機能を持つ「つまり系」の接続詞の例。「いわば」と「いってみれば」は「たとえていえば」の意を表し、比喩的・象徴的な表現に言い換える表現である
中村 (1973)	「いわば」は接続詞よりも、陳述副詞に近い性格を持っている
蒲谷 (1985)	「いわば」に関していうと、それは「理解者考慮型の表現」であり、比喩的に用いられる場合、「換言すれば」に置き換えられる。前後の表現が対等な関係をなす場合では「いわば」が換言の機能を果たし、「換言すれば」に置き換えられるが、前後の表現は対等でない限定の関係をなす場合では「換言すれば」に置き換えられない。
趙 (1992)	「いわば」の接続する範囲は文であると指摘している。「いわば」の前後文脈に換言の関係をなす対等な単位にある表現があると指摘している
青木 (2012)	平安時代の漢文訓読において用例が乏しい「いわば」という表現は、おそらく『古今和歌集』仮名序の影響を受けている

本節で概観した国語辞書及び先行研究における記述をまとめてみると、次のことが言

⁴ 石黒(2008)は、接続表現を「論理の接続詞」「整理の接続詞」「理解の接続詞」及び「展開の接続詞」という四つのタイプに分けている。「論理の接続詞」とは「前後の文脈が条件関係によって関連づけられることを示す」もの(例えば「だから」「しかし」など)、「整理の接続詞」とは「類似の内容が対などに並んでいることを示す」もの(例えば「一方」「まず」など)、「理解の接続詞」とは「先行文脈では理解しきれない内容を、後続文脈で聞き手にわかりやすく示すことを予告する」もの(例えば「つまり」「とくに」など)、「展開の接続詞」とは「話の本筋を切り換えたりまとめたりする」もの(例えば「さて」「このように」など)である。また、石黒氏の分類により、「先行文脈の内容を保ちながら、表現やものの見方を後続文脈で変えることを予告する置換の」機能を持つ「つまり系」の接続詞は「理解の接続詞」に属する。

えると考える。

- ・「いってみれば」の用法として、比喩の提示・わかりやすい表現への言い換え・単純な結論を導く、といったものが指摘されている。
- ・「いってみれば」と「いわば」とは類似表現であるが、独自の vs 一般的という意味的相違が指摘されている。

しかし、「いってみれば」の用法を考える際に、先行研究はこの表現が比喩や換言などを示すという事実注目しすぎて、その意味の本質には触れていない。言い換えれば、独特な比喩を導く、または個性のある表現への言い換えを示すことは、「いってみれば」の意味の本質による結果であるが、その意味の本質がなにかということは注目されていない。また、比喩と換言はかなり異なる用法であるが、「いってみれば」はこのように異質的な用法を同時に持っていることについても、この表現の意味的本質を追求することにより解明できると思われる。

結論を先取りしていえば、比喩にしても換言にしても、「いってみれば」は、後続内容が比喩なり極論なり単純化なりの、やや常識から踏み出した普通ではない表現を使う、ということを予告する注釈的な標識であると考え。この「普通でない表現を導く」用法は、「てみる」が持っている「試行」の意味によると考えられる。また、試行的な述べ方が選ばれたことには、話者が自分の言いたいことに力を入れて強調する一方、それが聞き手にとって受け入れにくい可能性も考慮し、「あくまでも個人的な試行である」ことを明言して、抵抗を避けようとする心理が窺える。

したがって、以下では、先行研究の指摘をふまえながら、「いってみれば」の実例を詳細に分析し、比喩や換言といった表面的な用法の背後に潜んでいる共通の意味の本質を考える。

3 調査・分析

本稿は BCCWJ に入っている「出版・書籍」、「図書館・書籍」及び「特的目的・ベストセラー」の用例を検索対象とした。用例を検索するには、短単位検索を用い、「語彙素「言う」＋後方共起 1＝書字形出現形「て」＋後方共起 2＝語彙素「見る」AND「活用形」「大分類」「仮定形」」をキーワードに設定した。先行研究の知見を踏まえて、以下では本稿で収集した用例について、まず換言・比喩・敢論⁵の三つの側面から考察する。

⁵ 「敢論」は稿者による用語であり、基本的に「あえていえば」と置き換えられ、「適切な表現はなか

3.1 換言

「換言」という用語は、飛田ほか編（2007）の『日本語学研究事典』及び日本語文法学会編（2014）の『日本語文法事典』で立項されていないが、『日本語文法事典』では「接続表現の意味分類」や「説明の構造」といった箇所に「換言」という用語が用いられている。本稿では、「前の言い方を後の言い方へ言い直す」意味で、「換言」という用語を用い、「換言を示すメタ的言語⁶」という意味で「換言標識」という用語を用いる。なお、本稿でいう「換言標識」に当たる概念として、小野（2015）では「言い換えマーカー」、石黒（2001）では「換言を表す接続語」という用語が用いられている。

換言用法の形式的特徴として、「いってみれば」の前後には「言い換えられる表現」（以下では「前部表現」と「言い換えた後の表現」（以下では「後部表現」）が文脈上明示されている。「いってみれば」を省くと、前後の表現が並列関係になり、言い換えの意味が不明瞭になる。この点について、後述する「比喩用法」も同じであるが、「敢論用法」は大きく異なる。また、換言は言い方を変えたいところに随所に現れるので、「いってみれば」が文における出現位置には、文頭または文中という比較的広い範囲が見られる。

換言用法の意味的特徴として、よりよく自分の意思を伝えるために、言い方を変えたり、やや特徴的な、聞き手の印象に残りそうな表現を使ったりして、前部表現の意味を強調する、ということが指摘できる。その具体的な実現形式として、1）具体的な説明をより抽象度の高いまとめの表現へ言い換える、つまり「詳→簡」タイプ、2）抽象度の高い表現をより具体的な言い方へ言い換える、つまり「簡→詳」タイプ、3）ほかの側面からもう一回説明を加える、という三種類が見られる。

まず、**タイプ1の「詳→簡」**について、「いってみれば」の前部表現と後部表現は、外延（つまり具体的な内容・事例）と内包（つまり抽象的な性質・概念）の意味関係を成している。(4)～(9)はこの類に当たる。(4)は、「利用者の立場でどんな客船がいいか」という前部表現を、後部の「私の望む客船像」という言い方に言い換えることにより、「利用者の立場でどんな客船がいいか」ということは、私の望む客船像ということである」という、より抽象度の高い述べ方になっている。(5)～(9)も同様に、後部表現は

なな思いつかないが、もしいっていうならば」の意味を表す用法を指す。その詳細は 3.3 節で説明する。

⁶ 「メタ的言語」の定義及び分類について諸説（たとえば英語学の研究において Williams1981, Kopple1985, Hyland1998, Hyland & Tse 2004, Ifantidou 2005 などがあり、日本語学の研究において杉戸1983・1989・1996・1998 などの一連の研究や西條1999 など）がある。諸説に多少の相違はあるものの、基本的には「話者のスタンスを表し、言語行動を注釈したり、説明したりする言語表現がメタ的言語である」という認識は共有されていると思われる。後述するが、稿者は「いってみれば」のような表現を「注釈標識」と呼び、メタ的言語の下位区分と見なす。しかし、これを具体的にメタ的言語においてどのように位置付けるべきかについて、本稿で検討する余裕はなく、別稿に譲る。

より抽象度の高い表現への言い換えである。

- (4) ある時、客船を設計したりする造船関係の会合に呼ばれて、利用者の立場でどんな客船がいいかを話させられることになった。言ってみれば私の望む客船像である。(1987 柳原良平『船旅を楽しむ本』)
- (5) 嫌だとか、反対だとか、いってみればヒステリックな、論争の届かない世界に入ってしまった。(1994 大下英治『小沢一郎の挑戦』)
- (6) 「時間をかけて取材し、隠れている事実を掘り起こし、必要とあらば告発をする。あるいは職業ジャーナリストではなく、市民的な目線で物事を見ていく。言ってみれば主観の回復、主張の回復。市民の側からの問題提起。」そういったことを意識してビデオ・ジャーナリズムを採用した。(2003 武田徹『戦争報道』)
- (7) きれいな虫ということでは、甲虫のなかまだって、けっしてひけをとりません。チョウチョの美しさは羽のもよう、いってみれば平面的な美しさだが、甲虫では、これに形がくわわってくる。(1990 那須正幹『夕焼けの子どもたち』)
- (8) 占領期の吉田政治は、こうした〈日本の文化大改革運動〉を排除し、それ以前の近代日本が西欧に追随する形で辿った道、いってみれば大正デモクラシーと称する西欧化の延長を新たに構築していくことだった。(2003 保阪正康『吉田茂という逆説』)
- (9) 彼は、花籠という名跡の年寄り株まで担保に取られるという借金地獄に陥り、マスコミにたたかれ、離婚、相撲界追放という道を歩んだのです。そのあと、プロレスラーになりましたが、まったく駄目で、現在はタレント稼業をやっています。自分がもっている相撲取りとしての運を、輪島は自分の懐に入れて、いってみれば「独運」を演じたのです。そういう彼の生き方は、「毒運」をもたらしました。(1998 田小彌太『社会に出てから役に立つ考え方』)

このタイプの「いってみれば」は、「つまり」に置き換えると許容度が落ちることがある。上記諸例において「いってみれば」が用いられるのは、結論を導くためではなく、より抽象化された言い方に変えるためなので、「つまり」に置き換えるとニュアンスが違ってくる。また、「いってみれば」には「いわば」に近い側面があることは否めないが、「いわば」の後に出てくる表現は世間一般に受け入れられている言い方であることが多い。それに対して「いってみれば」の後に出てくる表現は、話者の独特な、臨時的な表現であるのが一般的である。これは(9)のような話者独自の造語を用いる例があることからわかる。

次に、**タイプ2の「簡→詳」**は、以上のタイプ1)とは逆の方向で、後部表現は前部

表現をより詳細に展開している。(10)～(12)はこの類に当たる。(10)では、話者には「プロ野球」だけで自分の言いたいことが十分に伝わらないという心配があり、さらに「日本の中で一番レベルの高い野球」と強調している。(11)と(12)では、それぞれ「それ」と「天探女」の意味している内容を明言するように言い直されている。この場合、後部表現は前部表現より一歩深めた話ではなく、あくまでも表現を展開しているだけである。

- (10) それはプロ野球だからですよ。だって今、我々がやってるのはプロ野球なんですよ。言ってみれば、日本の中では一番レベルの高い野球をやってるわけでしょ。
(1998 谷村志穂・駒田徳広『野球に逢った日』)
- (11) そこの国に生きている一人ひとりに、若い人も年寄りも含めてそれぞれ個がある。それが大事なんだという、まあ言ってみれば国よりも個のほうが大事なんだという考え方ですね、うんと大雑把に極端にいえば。(2001 大江健三郎・小澤征爾『同年に生まれて』)
- (12) この発言者である「天佐具売」は「天探女」とも書かれ、言ってみれば「天の意を探るもの」、つまりものごとの吉凶を占う巫女のような存在であつたらしい。
(1998 別役実『鳥づくし』)

最後に、**タイプ3**の「**ほかの側面から説明を加える**」の場合、これは趙(1992)に指摘されている「前後にほぼ対等な表現形式がある」ものに当たる。話者は「いってみれば」を用いて、違う側面から同じ事実アプローチし、自分の観点をよりよく説明している。(13)～(18)は、この類に当たる。このタイプの「いってみれば」は省略されると、省略後の前後文脈はただ単に並べられているだけで、「このことはほかの言葉で解釈するとういうこととなる」という前後の関係性が読み取りにくくなり、聞き手にとって理解の負担が大きくなる。このタイプの「いってみれば」は、前後の文脈が表裏一体であることを明示する標識である。

- (13) 第二は一兆九千億円の長期借入金を含めた赤字べらし。言ってみれば借地代かせぎ。(1990 本多勝一・藤原信『貧困なる精神』)
- (14) 愉しみのためにドライブする人間は、決して自動車に運搬されているわけではありません。むしろ目的のないドライブは、自分の感情や感覚を解放することでしょう。それと同じことが、腕時計についても言えます。そういう意味では腕時計は多分に、自己肯定的な生、言ってみればニーチェ的な力強い生を生きるための道具であるのではないかとも思えます。(2002 並木浩一『腕時計一生もの』)
- (15) 「自らを灯火とする」ことを徹底的に行い、誰からもアプリオリな命題を一方的

に洗脳されていない、いってみれば他から与えられたあらゆる命題（法）を客観的に見て、選択することができる状態、幼児期から現在までに自分の心に埋め込まれたすべてのアンカーを取り去った、徹底的な自己脱洗脳状態、これが悟りなのである。（2003 苦米地英人『洗脳護身術』）

- (16) 第二次世界大戦が終結した時点で、世界がソビエトと西側同盟諸国との二大陣営に分裂すると予測した人は、恐らく誰もいなかったでしょう。言ってみれば世界において、全く予想外の展開が千九百四十五年から千九百四十七年にかけて起こったわけです。（1989 ロバート・ギルピン著/訳者不明『90 年代世界はどう動く』）
- (17) 世界的な民族主義の高まりに便乗し、南ベトナムにおけるアメリカの力を削ぐ。しかしそれに代わり得るものとしての共産主義の拡大を強調しない。もしこれをやり過ぎれば、西側世界は一致して「南」の支持にまわる。つまりアメリカの最大の失敗は、「薄々、北ベトナムとその背後にいるソ連のこの壮大な嘘に気づいていながら、その事実をはっきりとした形で公表し、世界の人々、なかでもアメリカ国民の大部分に納得させ得なかった」ところにあるのではあるまいか。いってみれば、『南の武力解放』を討議決定しておきながら、「南の民族自決を支援しているだけで、共産化を望んでいるわけではない」といっていた北ベトナム労働党の本心を見抜けなかったのである。（1999 三野正洋『ベトナム戦争アメリカなぜ勝てなかったか』）
- (18) 一国の指導者、軍の最上層部は、自分たちの手中にあるこの怪物の威力を実際に試してみたかったのひと言に尽きる。また別の面から見ても、実戦における使用について危惧すべき問題はきわめて少なかった。つまり、敵国が同じ兵器を用いて報復する可能性は皆無であること、さらには同盟国であってもこれを開発、実用化するためには今後かなりの時間を必要とすること、といった事実が前提にあった。言ってみれば、アメリカは当時にあつて、『まさに革命的な兵器が、どれほどの威力を持っているのかという興味、そしてまたそれを安心して使うことができる情勢』を見定めて早々と投下に踏み切ったのである。（2003 三野正洋『昭和史 20 の争点日本人の常識』）

以上では、換言用法の用例を 3 タイプに分けてみたが、前の表現をよりよく理解してもらうため、別の表現を使ってもう一回強調して説明する点は共通している。いずれにせよ、換言の結果として強調の効果が生じるため、前の表現に比べれば、言い換えた後の表現から話者の見解や態度がより顕著に窺われる。

3.2 比喩

「比喩」は、抽象的な概念、または日常生活から遠いところにある存在を、身近の意象や、より具体性を持つ事柄にたとえて説明を進めるときに用いられる修辞の手法である⁷。比喩を導く「いってみれば」に後続するのは、聞き手にとってよく知っている、またはイメージが湧きやすい事柄であることが多い。ある特定の概念や事象を説明する場合、淡々と言葉で説明するよりも、身近な事柄や意象にたとえながら説明するほうがより効果的である。

比喩用法の形式的特徴として、「いってみれば」の前後には「被喩詞（たとえられる事象）」である前部表現と、「喩詞（たとえの事象）」である後部表現があり、「いってみれば」は省略できない。「いってみれば」を省くと、被喩詞と喩詞の間の比喩関係が不明瞭になる。

しかし、一言で「比喩」といっても、その内実は実際様々である。そのうち、「いってみれば」と助動詞「ようだ」が共起し、比喩であることがより明白に読み取れる場合もあれば、「誇張」または「擬人」といった修辞の手法との線引きが困難である場合もある。

(19) ～ (27) は「ようだ」と共起し、比喩であることが明示されている用例である。

(19) では、「計算練習」の性質を説明するのに、「スポーツの基礎体力づくり」が例として取り上げられている。後者のイメージが一般的に共有されているため、話者の意図がより伝わりやすい。(20) では、「人口の多い東京で一人の殺人犯を探し出す」ことの難しさは、誰にもすぐわかる「宝くじに当たる」ことにたとえられている。(21) も同様に、「中学で正捕手にもなれなかったにもかかわらず、国家の代表として国際大会に出場する」という事実の異常性は、「県大会も甲子園もすっ飛ばして、日本代表でオリンピックに行く」という具体例を通じて説明されている。

- (19) また、計算練習は**いってみれば**ジョギングや体操のような基礎体力づくりですから、毎日すこしずつというのが一番効果が上がります。(1995 小宮山博仁『わが子を算数大好きに変える本』)
- (20) 「この女がごちゃまんといる東京で、たまたまひっかけてたひとりが殺人犯だなんて、**いってみれば**宝くじに当たるようなもんでしょ。あなた、自分が一億円の宝くじに当たるって思ったことがあります？」早瀬はがくりとうなだれた。(1997 梓河人・飯田譲治『アナザヘヴン』)

⁷ 『レトリック事典』(佐藤ほか 2006)によると、修辞学でいう「比喩」は、西洋用語の *metaphora* に当たり、隠喩の意味である。本稿でいう「比喩」は「たとえ」とか一般的に用いられる表現で、修辞学でいう換喩や提喩と区別されている隠喩の意味ではない。

- (21) これまでの生活の大半を占めていた野球では、公立中学の正捕手にさえなれなかったのに、今は一領土扱いとはいえ、国家の代表として国際大会に出場するなんて。言ってみりゃ県大会も甲子園もすっ飛ばして、日本代表でオリンピックに行くようなものだ。そんな出世、地球上ではありえない。(2003 喬林知『天に(マ)のつく雪が舞う!』)
- (22) 「子宝に恵まれなかったアルガオは、そのぶん、フィリピンのあちこちの貧村の子供たちに奨学資金を出しておった。もちろん、ロハス家の名前は伏せてある。言うてみれば、足ながおじさんのようなものじゃ。ルビーは、その奨学資金を受けて大学まで通い、日本語学科を首席で卒業した。奨学生の中では群を抜いて優秀な子供じゃった。アルガオは、ルビーが大学を卒業した日に初めて足ながおじさんの正体を明かし、養女の話を持ちかけたというわけじゃ」(1995 伊武桃内・恩田礼『鳳凰家の掟』)
- (23) 機動捜査隊は、強盗や殺人や放火といった事件の百十番通報があると、分駐所からいち早く事件現場に駆けつける。そして、現場保存と初動捜査を行なう。言うてみれば、捜査一課の先発部隊のような仕事をする。(2000 姉小路祐『汚職捜査』)
- (24) けれども、脳は人間の身体の一部なのだし、脳を働かせるためには血液が流れなくてはならない。タイムトリップ能力を酷使したがために、脳に血が集まりすぎて、言ってみればエンジンが焼き切れたような状態になった—それで平田は倒れた。今はエンジンが冷えてきたので、平田も正常な状態に戻りつつある、というわけだ。(1996 宮部みゆき『蒲生邸事件』)
- (25) 今夜は月が変に見えるな。何か不思議なものが月の中に籠っているようだ。変に見えるではないか。言ってみれば気の違った女子のようだ。気の違った女子が誰でも構わず相手にしようと、男を捜しているようだ。その女子は裸だ。真裸だ。雲がその裸を隠そうと思っても、女子がそれを隠させない。女子はそれを隠させずに、自慢らしく、空で裸を見せびらかしている。(1994 オスカー・ワイルド著・森鷗外訳『新・ちくま文学の森』)
- (26) 気軽に呼んでくれてもいいけれど、癪にさわるのは、どの声もおなじように軽いところだ。振り向いて欲しいような、もしそうになったら怖いような—みんな迷いながら、躊躇いながら、半端な声しか掛けてくれない。言ってみれば、歌舞伎座の三階席からの、間の悪い掛け声みたいなものだ。顔も見えない遠くから、ぼんやりした声をかけてもらっても、こっちとしては有り難さ半分、迷惑半分、近ごろでは却って気持ちが萎えていく。(2003 久世光彦『女神』)
- (27) 自分のことをほったらかしにしておいて、他人を思いやってどうするんですか? まず何よりも先に、自分のことを思いやって、自分を大切にしなければいけません。それが一番、社会のためなんです。言ってみれば、自分の家はゴミだらけな

のに、他人の庭の掃除をしているようなもの。おまけに、どうせ他人の家だから、うわべだけで、真剣に掃除していない。お互いにそんなことをやっているから、すべての家庭はゴミだらけです。(2005 宋文洲『努力しているヒマはない!』)

一方、(28) では、「いつてみれば」は「ようだ」と呼応して用いられていないが、文末に「似ている」という表現があるので、たとえであることがわかる。この例では、「玄関」によってつながられる「内」と「外」の概念は、普段の生活であまり意識されず、いきなりその機能を述べれば、聞き手にとってイメージが湧きにくい。そのため、話者は「潜水艦や宇宙船の減圧室」という具体例を用いて、玄関の機能及びそれによって区切られる「内」と「外」のイメージを理解させようとしている。

- (28) すでにふれたように、日本の玄関という空間はきわめて特有性を持っている。それは外部（これを日本では世間＝ソトサマという）と内部（これを日本では家＝ウチという）をつなぐ空間である。それはいつてみれば、潜水艦や宇宙船の減圧室にも似ている。潜水艦や宇宙船から外部の空間に出るためには、いったん船室から遮断された減圧室に入り、船室とのハッチを閉め、しかる後に外部とのハッチを開ける。そして外部に出ていく。入る時もその逆を行う。減圧室では潜水服や宇宙服を着脱する。玄関もまた、減圧室に似て外部と内部を調整する部屋の役割を持っている。そこでは、履き物を着脱する。海底世界や宇宙世界ではないが、外部世界と行き来するために、日本人は履き物を潜水服や宇宙服のように着脱するのである。(2004 柏木博『「しきり」の文化論』)

本稿でいう「比喩」は広義的に捉える修辞の手法で、それを細かくみると、実は「直喩」「隱喩」「擬人」や「誇張」といったものが含まれている。例えば、(25) は正確に言えば擬人法であり、(27) は後部表現で極端な言い方をとっているため、誇張の用法とも解釈できる。しかし、比喩にしても、擬人または誇張にしても、これらのいずれも、ある事柄をよりよく伝えるために、普通の言い方よりも、やや言い過ぎる、または受け入れにくい面があるかもしれないが、特徴的でイメージがより湧きやすい事柄を持ち込んで説明する表現手法である、という点で共通している。

3.3 敢論

「敢論」というのは、ある事象を述べるには、適切な表現がなかなか思いつかず、あるいは本来ならこのような言い方をすべきではないが、しかたなくこの表現を用いるしかないという場合に、「いつてみれば」を用いて、後続する「当座しのぎ」の表現を導

く用法である。この用法の場合、「いってみれば」は前後表現の関係性を示すというより、単に話者の態度を前置きとして表しているだけなので、「いってみれば」を省いても文の成立は影響されない。言い換えれば、話者は強い断言を避け、自分の主張に対してキャンセルの余地を与えるため、「これはあくまでも個人的な判断であり、100%の真理とまでは言わない」という前置きなりヘッジ (hedge) なりとして「いってみれば」を用いている。次の (29) ～ (32) はこの類に当たる。

敢論用法の形式的特徴について、(29) と (30) のような、「～は、いってみれば、～だ」の形で現れるものが多い。この場合、「いってみれば」を文頭に移動すると、前後の表現は換言関係にあると誤解されやすくなる。言い換えれば、敢論用法の「いってみれば」は、その直後に現れる表現が帯びている色合い、すなわち話者の態度やスタンスを予告する標識であるため、文における出現位置には意味がある。

- (29) 海舟は九日の日記の最後に、「愚説の人心を惑わす、実に酸鼻するに堪えず、歎息又日に極まれり」と記しつけている。だが、こうした政治変化も、**いってみれば**京都朝廷の圧力によって成り立った政権ゆえだったからだ。(1992 吉村淑甫『近藤長次郎』)
- (30) では、仲間のネズミが物理的ストレスでもがいたり鳴いたりしている姿を、隣で見てだけのネズミは、**言ってみれば**「心理的ストレス」にさらされているわけだが、脳内で何か変化は起きているのだろうか。(2001 野村進『脳を知りたい!』)

一方、(31) ～ (32) のような、文中に挿入されて用いられる「いってみれば」の用例も見られる。この場合、「いってみれば」は一つのまとまった表現、つまり一つの慣用表現である性質がより強まり、挿入表現として用いられているように見える。挿入表現であるため、文の随所に現れることが可能で、後ろのなんらかの形式と呼応する必要はない。具体例で見てみると、(31) は、「絹ものの」という名詞修飾の後ろに、言い換えれば「絹ものの特徴」という名詞句の中に「いってみれば」が現れ、「特徴」という表現に対する話者の躊躇が伝わってくる。また、(32) は、「うまくてあたりまえだろう」の部分は、本来なら「いってみれば」の語構成から予測できないような表現であり、適切ではないがこういうしかない、というニュアンスが感じられる。

- (31) 「いや、つまり、織りあがったときは真っ白ですよ、羽二重にしろ何にしろ。けど、それを長いこと置いとくとね...」「黄ばんじゃうの!？」叫び声に近い大声が飛び出した。「ええ、絹ものの、**言ってみれば**特徴ですか。だからすぐお召しになるというんでしたらいいんですけども...」番頭さんは言いにくそうにことばを選んだ。(1990 鷺沢萌『葉桜の日』)

- (32) 「…つまりね、確かに、ドン・ペリニヨンもサロンもすばらしいシャンパーニュだけれど、**言ってみれば**…うまくてあたりまえだろう。あれだけの値段をつけるんだから。それに、察するにきみはどちらも経験済みだろう？ だったら…きみにいいところを見せるためには、きみが知っているものや飲んだことのあるものより、知らなくて飲んだことのないもの、いわゆる隠れた名品を選んだ方が評価が上がるんじゃないかと思ってね。…違う？」 僕のかたわらに腰を下ろして、滔々と、けれど一言一言をかみしめるように彼は言った。(2002 藤原万璃子『ワイルド・ローズ』)

また、敢論用法の意味的特徴として、(29) と (30) のように、「いってみれば」に評価の低いこと、またはマイナスな事象が後続することが多い。その理由として、他人について良いことを述べる、つまり他人を褒めたり高く評価したりすることは、いわゆる FTA（他人の面子を侵害する危険性）を伴わないので、あくまでも話者個人の見解であるという注釈をつけたり、クッションを入れたりする要求が低い。逆に、自分について高い評価を下すのがマイナスな意味合いではないにもかかわらず、FTA を伴う可能性が生じるので、謙虚な態度を示すために「いってみれば」が用いられることがある。また、中立的な評価でも、話者は言い過ぎる可能性、または言い過ぎな表現は話者にとって受け入れにくいことを考慮した上、緩衝材として「いってみれば」を用い、「これからの主張はちょっとオーバーに聞こえるかもしれない」ことを予告し、控え目な姿勢を示す。

(29) ～ (32) のように、後続するのはあくまでも「試行」的な言い方であり、話者がこういう言い方をするのに躊躇している、ということの標識として、文の中に「いってみれば」が挿入されることが多い。要するに、敢論用法の場合、話者は自分の表現に「あくまでも個人的、試行的な表現である」という注釈をつける際に、「いってみれば」を用いている。

4 「いってみれば」の意味的本質について

3 節では、「いってみれば」の用法について換言、比喩及び敢論の三つの側面から考察した。しかし、この三種類の用法ははっきりと区別されている排他的関係にあるわけではなく、一つの用例で複数の解釈ができる例も少なくない。

例えば、次の (33) では、「いってみれば」が文中に現れ、前置きとして後続する比喩的、または敢論的な言い方を導く用法とみてよいが、(33)'のように「いってみれば」の位置を移動すれば、換言の用法と解釈されやすくなる。

- (33) 今回の“Charles and Diana”は、副題に「その結婚生活」とうたっているように、先に出版された“Charles-The Man & The Prince”の延長線上にある。「英国でもっとも正確な王室著述家」と折り紙つきのフィッシャー夫妻の本は、**いってみれば**羽目はずさない。(1986 浅井泰範『チャールズ&ダイアナ』)
- (33)’ 今回の“Charles and Diana”は、副題に「その結婚生活」とうたっているように、先に出版された“Charles-The Man & The Prince”の延長線上にある。**いってみれば**、「英国でもっとも正確な王室著述家」と折り紙つきのフィッシャー夫妻の本は、羽目をはずさない。(稿者による改変)

次の(34)では、家族関係について「試用期間」という表現が用いられており、やや常識から外れているような言い方であるため、敢論用法とでもいうべきであるが、これを(34)’のように調整すれば、「いってみれば」の後に現れる内容は前の内容を比喻の手法を用いてさらに解釈しているように理解できる。

- (34) 女性を正式に籍を入れて嫁に迎える前に、**言ってみれば**試用期間のような形で一緒に住ませ、婚家に馴染むようならそのまま嫁にし、馴染まないようなら実家に返す。(宮部みゆき『理由』1998)
- (34)’ 女性を正式に籍を入れて嫁に迎える前に、一緒に住ませ、婚家に馴染むようならそのまま嫁にし、馴染まないようなら実家に返す。**言ってみれば**試用期間のような形である。(稿者による改変)

また、次に再掲する換言用法の(4)と敢論用法の(30)も比喻として解釈できないわけではない。(4)の場合、「客船像」は「客船の理想像」、つまり「理想的な客船の様子」という意味で用いられているが、「理想像」というのは、普通、「理想として思い浮かべられる状態または人物を意味する」ため、「客船」のようなモノについて「～像」を語ることは擬人といえれば擬人に近い修辞法でもある。(30)の場合も同じく、ネズミについて「心理」のことを語っているので、やはり擬人法と解釈できる。

- (4) ある時、客船を設計したりする造船関係の会合に呼ばれて、利用者の立場でどんな客船がいいかを話させられることになった。**言ってみれば**私の望む客船像である。(1987 柳原良平『船旅を楽しむ本』)
- (30) では、仲間のネズミが物理的ストレスでもがいたり鳴いたりしている姿を、隣で見ているだけのネズミは、**言ってみれば**「心理的ストレス」にさらされているわけだが、脳内で何か変化は起きているのだろうか。(2001 野村進『脳を知りたい!』)

このように、換言・比喻・敢論のいずれにしても、「後続する言い方はみんなに同意してもらえないかもしれないが、話者の考え方に従っていうと、こういうことになる」、という注釈的な意味が「いってみれば」によって表される。言い換えれば、話者の独特な言い方を導くために、「いってみれば」が用いられている。そして、その独特な言い方は換言、比喻または敢論といった表現効果として実現されている。

では、「いってみれば」の根本的な用法が、話者の独特な言い方を導くというところにあるとすれば、なぜこのような用法が生じるのか、そしてこの表現は文法的にどのように位置付けるべきだろうか？

まず、なぜ「いってみれば」がこのような用法を持っているかについては、この表現の語構成に求めることができる。つまり、これは「いってみれば」における助動詞「てみる」の意味的特性によるものだと考えられる。

「てみる」の意味的特徴及び「V-てみる」という表現形式の文法化については複数の先行研究⁸が見られる。「て+みる」から「てみる」への意味変化の経路や「V-てみる」の文法化の度合いについては多少意見の相違は見られるが、助動詞「てみる」の意味的特性が「試行」である点については、おそらく異論はないだろう。「試行」というのは、臨時的な、一回的な性質を持っているため、一般論ではなく、あくまでも話者個人の見解である内容を表す。そして、後続する表現が試行的であることを明示するということは、ほかの意見の存在に対して十分な余地を残している。そのため、聞き手が話者の臨時的な言い方に対する抵抗感が軽減する。話者は意図的にこのような「いってみれば」を用いることにより、断言を避け、聞き手に押し付けがましい印象を与えないように工夫している。

そして、このような機能を持つ「いってみれば」を、文法的にどのように位置付けるべきかについて、従来の研究では、基本的に、この表現を接続表現の一つとして片付けているが、そこにはさらなる慎重な検討が必要であると思われる。上述したように、「いってみれば」は後続する内容が話者による一試行であることを明示し、聞き手に対する配慮の表現とでもいえる。「いってみれば」の前後の表現をつなげている働きも否めないが、その中心的な役割は「自分の言葉に注釈をつける」ところにあると考えられる。話者は聞き手との間の知識や認識状態の差を念頭において、積極的に自分の態度やスタンスを明示して、よりよく自分の意思を伝えるために、「いってみれば」のような標識を用いている。このような自分で自分の言葉に注釈をつける現象は、決して「いってみれば」のみに見られる特殊な役割ではなく、次の(35)に示すいずれの例における太字の表現

⁸ たとえば、吉川(1975)、高橋(1976)、松木(1997)、Ono(2000)、田中(1996・2000)、須永(2007)、嶋田(2009)や中山(2013)などがある。

にも、似たような機能が読み取れる。このような機能を持つ表現は、形式上極めて豊富なバリエーションがあるが、いずれも話者のスタンスを明示するという根本的な機能を持っている。稿者はこの一群の表現を「注釈標識」と呼ぶ。

- (35) a. 現在の日本経済においては、一筋縄ではいかない構造的問題が幾重にも絡み合っている。**簡単に**いえば、今の経済体制には改革が必要だ。
- b. たぶん多くの人はあなたのご意見には賛同できないでしょう。**率直に**いいますが、あなたは間違っている。
- c. 太郎に向いている仕事はなかなかないと思う。**はっきり**いって、あいつは無能だ。
- d. そこから彼の指紋は検出されなかった。**詳しく**いえば、誰の指紋もついていなかった。
- e. この強化は、ポジティブな刺激を与えることで、**正確には**正の強化という。
- f. 発酵と腐敗は、どちらも微生物が関わってきますが、**厳密には**別物です。
- g. オンライン物販での利益は、**単純には**仕入値と売値の差額である。
- h. 社会的スキルとは、**簡潔には**対人関係を円滑にすすめる行動である。

このように、「いってみれば」の本質的意味から注釈の機能が実現される経路として、次のようにまとめることができる。

「てみる」による「試行」の意味

→「試行」による臨時的、撤回可能の意味

→ これを話者の発話に臨む態度として「いってみれば」によって明示する

5 終わりに

本稿は「いってみれば」を考察対象とし、国語辞書と先行研究の記述を踏まえながら、この表現の現代日本語における用法を考察してみた。結論として、従来言われている換言や比喩といった用法は、あくまでも結果であって、「いってみれば」の意味の本質ではない。これらの用法は根本的なところで共通しているのは、「てみる」による「試行」の意味である。そして、話者が「これは私の試行的な表現である」という注釈を「いってみれば」により明示している。

「いわば」の用法分析、及びそれと「いってみれば」との相違についての考察は別稿に譲るが、本稿の考察に基づき、その見通しだけを簡単に述べておく。ともに条件形式

の語構成を持つ「いってみれば」と「いわば」は、意味上の仮定性を共有し、相互に言い換えられることが多い。しかし、「いわば」は「いってみれば」のような明示的な試行性を欠いているため、この二つの表現のニュアンスに差が生じる。特に、「いってみれば」に見られる敢論用法が「いわば」には馴染みにくい原因が、この試行性の欠如にあるということであろう。

言葉のための言葉、または話者の態度やスタンスを明示する言葉、という意味では、「いってみれば」「いわば」は「正確には」「厳密には」や「正確にいえば」「厳密にいえば」といった表現と類似し、稿者がいう「注釈標識」の一つと認めてよいと考える。日本語における注釈標識については、いままでの研究では周辺の現象として片付けられる傾向があり、あまり注目されていない。だからこそ、この類の表現を日本語においてどのように位置付けるべきか、接続表現や談話標識といった近隣の文法カテゴリーとはどこが重なり、どこが異なるかといった点を追求する余地が残されている。注釈標識の全体像を明らかにするには、これからもこのような表現を一つ一つ仔細に考察する必要がある。

また、「いってみれば」の用法拡張について、形式の面においてどのような経緯で発達してきたかについては、共時態の考察だけでは解決できない。本稿は調査対象を現代語に絞って、共時的考察しか行っていないが、今後、通時的観点からも、「いってみれば」の用法成立の経緯を考察したい。

参考文献

- 青木毅 (2012) 『『方丈記』の用語と文体に関する一考察』『国文学攷』213、広島大学国語国文学会、pp.1-13.
- 石黒圭 (2001) 「換言を表す接続語について―「すなわち」「つまり」「要するに」を中心に―」『日本語教育』110、pp.32-41.
- 石黒圭 (2008) 『文章は接続詞で決まる』光文社新書
- 蒲谷宏 (1982) 「言い換え」に関する基礎的考察―換言論の提唱―『国語学研究と資料』6、pp.70-78.
- 蒲谷宏 (1985) 「文章内における言い換えについて―接続語句による言い換えを中心に―」『国語学研究』85、早稲田大学、pp.92-101.
- 小野正樹 (2015) 「言い換えマーカーの記述試案」『日本語コミュニケーション研究論集』4、日本語コミュニケーション研究会、pp.3-10.
- 西條美紀 (1999) 『談話におけるメタ言語の役割』風間書房
- 佐藤信夫・佐々木健一・松尾大 (2006) 『レトリック事典』大修館書店
- 嶋田紀之 (2009) 「V てみる」の多義性と文法化』『日本認知言語学会論文集』9、pp.132-142.
- 杉戸清樹 (1983) 「待遇表現としての言語行動 注釈という視点」『日本語学』2-7、pp.32-42.

- 杉戸清樹 (1989) 「言語行動についてのきまりことば」『日本語学』8-2、pp.4-14.
- 杉戸清樹 (1996) 「メタ言語行動の視野言語行動の―「構え」を探る視点(特集メタ言語)―」『日本語学』15-11、pp.19-27.
- 杉戸清樹 (1998) 「メタ言語行動表現の機能―対人性のメカニズム―」『日本語学』17-11、pp.168-177.
- 須永哲矢 (2007) 「してみる形の意味」『日本語学論集』3、pp.105-92.
- 高橋太郎 (1976) 「すがたともくろみ」金田一春彦編『日本語動詞のアスペクト』むぎ書房、pp.117-153.
- 田中聡子 (1996) 「動詞「みる」の多義構造」『言語研究』110、pp.120-142.
- 田中聡子 (2000) 「「てみる」の意味記述の試み」『言葉と文化』1、名古屋大学大学院国際言語文化研究科日本言語文化専攻、pp.93-110.
- 趙慧欣 (1992) 「接続表現について―文章中で接続機能と修飾機能を果す、いわゆる副詞等を中心に―」『表現研究』55、表現学会、pp.41-46.
- 中村明 (1973) 「接続詞の周辺―同帰に属する語の文法的性格―」『国語研究』4、pp.79-100.
- 中山富子 (2013) 「補助動詞「～てみる」の基本義」『昭和女子大学大学院言語教育・コミュニケーション研究』8、pp.39-56.
- 日本語文法学会編 (2014) 『日本語文法事典』大修館書店
- 飛田良文・浅田秀子 (1994) 『現代副詞用法辞典』東京堂出版
- 飛田良文(主幹)・遠藤好英・加藤正信・佐藤武義・蜂谷清人・前田富祺編 (2007) 『日本語学研究事典』明治書院
- 松木正恵 (1997) 「「見る」の文法化―「てみると」「てみれば」「てみたら」を例として―」『早稲田日本語研究』5、pp.1-12.
- 森田良行 (1989) 『基礎日本語辞典』角川書店
- 吉川武時 (1975) 「「～てみる」の意味とそれの実現する条件」『日本語学校論集』2、pp.36-51.
- Bolinger, D. (1977). *Meaning and Form*. New York: Longman.
- Hyland, K. (1998). Persuasion and Context: The pragmatics of academic metadiscourse. *Journal of Pragmatics*, 30(4): 437-455.
- Hyland, K., & Tse, P. (2004). Metadiscourse in Academic Writing: A reappraisal. *Applied Linguistics*, 25(2):156-177.
- Ifantidou, E. (2005). The semantics and pragmatics of metadiscourse. *Journal of Pragmatics*, 37(9): 1325-1353.
- Kopple, W. J. Vande. (1985). Some exploratory discourse on metadiscourse. *College Composition and Communication* 36:82-93.
- Ono, Kiyoharu. 2000. Grammaticalization of Japanese Verbs. *Australian Journal of Linguistics*, 20-1.
- Williams, J. M. (1981). *Style: Ten Lessons in Clarity and Grace*. Boston:Scott Foresman.